

精神科初期研修カリキュラム

研修実施施設：医療法人永和会こころあ病院

<一般目標 GIO: General Instructional Objective>

全人的医療の観点から、個々人に合った総合的な診断・治療・疾病予防を行うため、身体面のみならず精神や社会的側面からも対応できるように、精神科における基本的な診断・治療・社会復帰、医療コミュニケーション、チーム医療等、必要な知識と技術の習得を目指す。

<行動目標 SBO: Specific Behavioral Objective>

1. 医師－患者間の信頼関係構築のための医療面接

医療面接ではまず患者や家族の訴えを共感的に傾聴し、丁寧に話を聞いていく。そこから、問題点を明らかにしていくが、正確な情報収集においては、言語面のみでなく、非言語的な面にも注意を向け、総合的な判断を行う必要がある。また、患者や家族側の積極的な治療態度を引き出すためにも、医師－患者間の信頼関係を構築することは非常に重要なことである。

2. 精神症状の捉え方の基礎を習得

精神症状に関する正確な知識や専門用語を学習し、医療面接で得られた情報から、不眠や不安、せん妄、もの忘れ、抑うつ、躁状態、幻覚・妄想等、精神症状や病的体験に関して、実践を通して理解・判断できる技術を身につける。

3. 精神疾患に対する初期対応、及び治療

精神疾患を持つ患者に特有の恐れや不安、過敏さなどへの初期対応の方法を学び、患者が安心して治療を受けられるように努めていく。また、患者や家族の訴えを傾聴し、診断や治療方針など、分かりやすく納得できるよう説明していくなど、必要なかわり方に関しての学習を行う。

4. 主要な精神疾患の診断と治療

主要な精神疾患である統合失調症、うつ病などの気分障害、認知症等に関して、診断、各種疾患の特徴やかかわり方、検査、治療、退院支援等について、当院における入院や外来の症例を通して学んでいく。

5. 医の倫理（人権の尊重とインフォームドコンセント）

医療がもたらす内容の全てを患者に分かりやすく説明し、了解をとった上で治療を行い（インフォームドコンセント）、患者のプライバシーにも配慮し、職務上知りえた情報については守秘義務として厳しく守らねばならない（個人情報保護）、また開示に耐えられる正確な診療記録の作成など、医師は患者の心身に与える影響が極めて大きく、厳しい倫理性が要求される。

6. チーム医療・多職種連携

患者中心の医療の実現のために、医師のみでなく、看護師・薬剤師・精神保健福祉士・作業療法士・管理栄養士などの多職種との連携についても経験し、チーム医療やチームリーダーとしてのあり方についても学習する。

7. 精神保健福祉法

精神科領域では、患者の医療や人権に配慮すべく精神保健福祉法が制定されており、関連する事柄に関して把握しておく必要がある。例えば、精神科における入院形態には任意入院、医療保護入院、措置入院、応急入院など様々なものがあり、隔離・拘束といった行動制限などとも併せて、法的手続きや精神保健指定医の役割などを理解するなどである。

8. 精神科リハビリテーションと地域支援体制

社会復帰のための精神科リハビリテーション（作業療法）や、デイケア、グループホーム、訪問看護などの実際を経験し、地域支援体制を理解する。

<方略 LS: Learning Strategies>

外来通院、入院療養、精神科リハビリテーション（デイケア、作業療法等）で加療を受けている患者や新規患者の治療に陪審、及び指導医のもとで主治医として担当することにより、精神科としての接し方、精神症状の把握・診断、治療、社会的支援等について実際の臨床を通じて学び、精神科に必要な臨床的技術を身につける。また、必要症例（統合失調症、気分障害、認知症等）についてはレポート提出を行い、評価を受ける。

他、適宜症例検討会やカンファレンスを実施し、治療についての相談、意見交換を行う。

<研修評価 EV: Evaluation>

- ・研修目標各項目について自己評価・指導医評価を行う。
- ・面接（討論）、レポート、EPOC 等を用いて評価を行う。

	月	火	水	木	金
9:00~12:00	症例検討会	病棟業務	病棟業務	外来	外来
13:00~17:00	病棟業務	病棟回診 カンファレンス	外来	病棟業務 (デイケア)	病棟業務 (作業療法)